

# 熱い夏!! そして感動再び いい大人形劇フェスタ2000



劇人と観衆が一体となって

当竜丘地区においても、五会場九劇団の公演が行われ、延べ七六五人の人々が観劇しました。

天候にも恵まれ、各会場共熱気に満ち、演じる側も観る側も汗をかきながらの公演となりました。

上演劇団もプロ・保母さん・大学生と幅広く、各劇団の創意工夫された舞台が感動をあたえてくれました。

今回は小学校会場の「ガイイ氏即興人形劇場」にスポットをあててみました。

この劇団は、一九六三年に創立され、人形遣いの息づかいが直接人形に伝わる「手遣い人形」にこだわりを持ち活動している劇団で、二回目のフェスタ参加となります。

では、シンブルな玉を使った「雨々ふれふれ」など、海外でも評判の叙情的な珠玉の小作品を集めた作品は、人形を実際に子どもたちも扱いました。

また、舞台の中で演じていた獅子が突然幕の外に出て来て、逃げ出す子どもや、泣き出す子どももいました。観衆の意識を人形劇の中に入れていく技術は、さすがプロだと思いました。

「魔法の森の物語」は、ストーリーは簡単な筋立てで、人形の生き生きとした



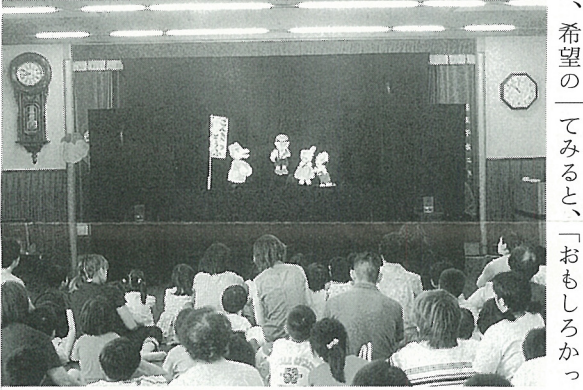
飯田市の夏の祭典「いい大人形劇フェスタ二〇〇〇」が八月三日から六日まで行われました。フェスタとして生まれ変わって二年目、二八五劇団が参加して、市内各地で、心はずむ人形劇との出会いがありました。



発行所  
飯田市竜丘公民館  
編集人  
竜丘公民館広報委員会  
印刷所  
龍共印刷株式会社  
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,777人
男子	3,332人
女子	3,445人
世帯数	2,081戸
(12年8月末現在)	

ある子どもたちを舞台の袖で鑑賞させてくれました。これは、人形の持ち方を見てもう目的ではなく、人形遣いの息づかいが直接人形に伝わるその息づかいを、実際に肌で感じてもらうたいの思いで行うそうです。そして、子どもたちと「帰って



リズムカルなセリフと動きに、子どもたちが夢中で答えているうちに話が展開し、子どもたちははちきれぬエネルギーがぶつかり合っています。

プロの劇団では、演じる舞台裏を見せる事はあまり無いと思いますが、ガイイ氏即興人形劇場では、希望のある子どもたちを舞台の袖で鑑賞させてくれました。これは、人形の持ち方を見てもう目的ではなく、人形遣いの息づかいが直接人形に伝わるその息づかいを、実際に肌で感じてもらうたいの思いで行うそうです。そして、子どもたちと「帰って

からお父さんやお母さん、また、友達などと簡単でもいいので実際に人形を造って操ってみましょう」と約束しました。

公演だけでなく、公演の中で人形遣いを育てる、そんな活動が特徴的な劇団でした。

観劇を終えて感想を聞いてみると、「おもしろかった」「良かった」などと、一年に一回身近にやって来る楽しい時間を、喜んでいて、意見が聞けました。

反面、システム等をもう少し考えてほしい、有料公演は飯田市街でしか見れないのは公平感が無いなど、厳しい意見もありました。

印象的な意見として、「公演に対してのアピールはしっかりされているのか。」との声がありました。「東京でこの劇団が公演するならば、朝から列ができる位です。」

去る七月二十日(海の日)に、竜丘公民館委員研修旅行が、三十余名の参加者があり行われました。

本年度は、広報委員会が幹事となり、上田塩田平を中心し、竜丘にゆかりのある自由画教育に関する山本鼎記念館と、戦没画学生の絵画を展示している無言館を訪ねるコースでした。

往路は上信越自動車道経由で向かい、上田菅平インターで降り、まず山本鼎記念館を訪ねました。

館内には、山本鼎の油彩四十一点をはじめ、版画作品、農民美術作品、自由画などが数多く展示されていました。

山本鼎と無言館を訪ねて  
公民館委員研修旅行

鼎自身の作品からは、その人間性を垣間見ることができ、農民美術の素朴な木片人間の彫刻などからは、当時の人々の生活を感じとるひとときとなりました。

この記念館は、上田城跡公園内にあるので、上田城櫓や博物館にも、足を運んだ方もおりました。

次に訪れたのは、無言館です。ここは日中、太平洋戦争で出征し亡くなられた美術学校の学生の絵画や、家族に送った手紙などを展示してありました。ここでは、静かに画学生の絵画を一つ一つ丹念に、見入っていました。その作品から、絵画に懸けた志、それを奪

た戦争の悲しさや、平和のかけがえのない貴重さを、考えさせられるひとときでした。

昼食は、別所温泉にてとりました。夏の日差しが照りつける暑い日だったので、冷たい飲み物も多く頂きました。その後は自由行動となりました。ゆったりと温泉につかり日頃の疲れをいやす方、北向観音や安楽寺などを散策する方と、それぞれ思い

すよ。それもワッペン料だけで観れるとは、考えられない。」と、県外から来た方は話してくれました。

上演をしてくれた劇団の方々に意見を聞くと、「きめの細かい所まで気をつけてくれて、手伝ってくれる方々の熱意を感じました。」と、役員の皆さんの苦労を労う声がかかれ、演じる側観る側が一体となった、人形劇フェスタ二〇〇〇となりました。

感動よ、また来年!!

た「良かった」などと、一年に一回身近にやって来る楽しい時間を、喜んでいて、意見が聞けました。

反面、システム等をもう少し考えてほしい、有料公演は飯田市街でしか見れないのは公平感が無いなど、厳しい意見もありました。

印象的な意見として、「公演に対してのアピールはしっかりされているのか。」との声がありました。「東京でこの劇団が公演するならば、朝から列ができる位です。」

た「良かった」などと、一年に一回身近にやって来る楽しい時間を、喜んでいて、意見が聞けました。

反面、システム等をもう少し考えてほしい、有料公演は飯田市街でしか見れないのは公平感が無いなど、厳しい意見もありました。

印象的な意見として、「公演に対してのアピールはしっかりされているのか。」との声がありました。「東京でこの劇団が公演するならば、朝から列ができる位です。」

た「良かった」などと、一年に一回身近にやって来る楽しい時間を、喜んでいて、意見が聞けました。

反面、システム等をもう少し考えてほしい、有料公演は飯田市街でしか見れないのは公平感が無いなど、厳しい意見もありました。

印象的な意見として、「公演に対してのアピールはしっかりされているのか。」との声がありました。「東京でこの劇団が公演するならば、朝から列ができる位です。」

た「良かった」などと、一年に一回身近にやって来る楽しい時間を、喜んでいて、意見が聞けました。

反面、システム等をもう少し考えてほしい、有料公演は飯田市街でしか見れないのは公平感が無いなど、厳しい意見もありました。

印象的な意見として、「公演に対してのアピールはしっかりされているのか。」との声がありました。「東京でこの劇団が公演するならば、朝から列ができる位です。」

「新公民館  
いよいよ建設着手」

公民館建設は、測量や埋蔵文化財の調査を終えて、来春の完成をめざして、このごろ建設の植音が聞こえてくるようになりました。

そこでどのような特色があるのかお聞きしました。

「新公民館  
いよいよ建設着手」

公民館建設は、測量や埋蔵文化財の調査を終えて、来春の完成をめざして、このごろ建設の植音が聞こえてくるようになりました。

そこでどのような特色があるのかお聞きしました。

「新公民館  
いよいよ建設着手」

公民館建設は、測量や埋蔵文化財の調査を終えて、来春の完成をめざして、このごろ建設の植音が聞こえてくるようになりました。

そこでどのような特色があるのかお聞きしました。

「新公民館  
いよいよ建設着手」

公民館建設は、測量や埋蔵文化財の調査を終えて、来春の完成をめざして、このごろ建設の植音が聞こえてくるようになりました。

そこでどのような特色があるのかお聞きしました。

「新公民館  
いよいよ建設着手」

公民館建設は、測量や埋蔵文化財の調査を終えて、来春の完成をめざして、このごろ建設の植音が聞こえてくるようになりました。

そこでどのような特色があるのかお聞きしました。

この公民館は、「環境文化都市飯田」のモデルとなる第一号の公共施設のため、化石燃料を極力使用しないように、太陽光発電、パッシブソーラー発電(太陽熱で冷暖房を補助する)や、

この公民館は、「環境文化都市飯田」のモデルとなる第一号の公共施設のため、化石燃料を極力使用しないように、太陽光発電、パッシブソーラー発電(太陽熱で冷暖房を補助する)や、

この公民館は、「環境文化都市飯田」のモデルとなる第一号の公共施設のため、化石燃料を極力使用しないように、太陽光発電、パッシブソーラー発電(太陽熱で冷暖房を補助する)や、

この公民館は、「環境文化都市飯田」のモデルとなる第一号の公共施設のため、化石燃料を極力使用しないように、太陽光発電、パッシブソーラー発電(太陽熱で冷暖房を補助する)や、

この公民館は、「環境文化都市飯田」のモデルとなる第一号の公共施設のため、化石燃料を極力使用しないように、太陽光発電、パッシブソーラー発電(太陽熱で冷暖房を補助する)や、

「ヤブ敷」

最近心に残った本がある。大平光代さんの「だから、あなたも生きぬいて」という本である。

彼女は中二の時いじめに遭い、孤独感の中で自殺を図る。一命をとりとめたものの彼女をとりまく状況は変わらず、自分の居場所を求めて非行に走り、十六歳の時には極道の妻となり、背中に刺青を入れる。現在の養父である大平さんに再会し励まされ、応援されて泥沼からはい上がる決意をし、努力を重ねて中学の学歴を乗り越えて「宅建」「司法書士」と次々と合格する。父親の病気で、二十九歳の時、最難関といわれる司法試験に一発で合格し、現在は弁護士として非行少年の更生に力をつくしているというものである。

私は涙があふれてたまたまなかった。

悲しい事件が多すぎる。親が子どもを殺したり、子どもが親や友だちを傷つけたり……。確かにいろいろなことがある。苦しいことも多いだろう。笑ってばかりもいられないだろう。

本の中で彼女は言う。

「もう一度中学生の頃に戻れるのなら、いじめられてどんなに辛くても耐える。自殺なんかして親を悲しませるようなことはしない。どんなに苦しくても道を踏み外したりなんかしない。子どもたちに。」

命を大切にしてほしい。自分の生をたくましく生きてほしい。

そして自分自身も。心揺すぶられる本に出会えた。生き方を見直せた。人形劇、りんご、ファイニス飯田の熱い夏が終わった。あなたはどの秋どんな本に出会えるでしょうか。

「ヤブ敷」

最近心に残った本がある。大平光代さんの「だから、あなたも生きぬいて」という本である。

彼女は中二の時いじめに遭い、孤独感の中で自殺を図る。一命をとりとめたものの彼女をとりまく状況は変わらず、自分の居場所を求めて非行に走り、十六歳の時には極道の妻となり、背中に刺青を入れる。現在の養父である大平さんに再会し励まされ、応援されて泥沼からはい上がる決意をし、努力を重ねて中学の学歴を乗り越えて「宅建」「司法書士」と次々と合格する。父親の病気で、二十九歳の時、最難関といわれる司法試験に一発で合格し、現在は弁護士として非行少年の更生に力をつくしているというものである。

私は涙があふれてたまたまなかった。

悲しい事件が多すぎる。親が子どもを殺したり、子どもが親や友だちを傷つけたり……。確かにいろいろなことがある。苦しいことも多いだろう。笑ってばかりもいられないだろう。

本の中で彼女は言う。

「もう一度中学生の頃に戻れるのなら、いじめられてどんなに辛くても耐える。自殺なんかして親を悲しませるようなことはしない。どんなに苦しくても道を踏み外したりなんかしない。子どもたちに。」

命を大切にしてほしい。自分の生をたくましく生きてほしい。

そして自分自身も。心揺すぶられる本に出会えた。生き方を見直せた。人形劇、りんご、ファイニス飯田の熱い夏が終わった。あなたはどの秋どんな本に出会えるでしょうか。

「ヤブ敷」

最近心に残った本がある。大平光代さんの「だから、あなたも生きぬいて」という本である。

彼女は中二の時いじめに遭い、孤独感の中で自殺を図る。一命をとりとめたものの彼女をとりまく状況は変わらず、自分の居場所を求めて非行に走り、十六歳の時には極道の妻となり、背中に刺青を入れる。現在の養父である大平さんに再会し励まされ、応援されて泥沼からはい上がる決意をし、努力を重ねて中学の学歴を乗り越えて「宅建」「司法書士」と次々と合格する。父親の病気で、二十九歳の時、最難関といわれる司法試験に一発で合格し、現在は弁護士として非行少年の更生に力をつくしているというものである。

私は涙があふれてたまたまなかった。

悲しい事件が多すぎる。親が子どもを殺したり、子どもが親や友だちを傷つけたり……。確かにいろいろなことがある。苦しいことも多いだろう。笑ってばかりもいられないだろう。

本の中で彼女は言う。

「もう一度中学生の頃に戻れるのなら、いじめられてどんなに辛くても耐える。自殺なんかして親を悲しませるようなことはしない。どんなに苦しくても道を踏み外したりなんかしない。子どもたちに。」

命を大切にしてほしい。自分の生をたくましく生きてほしい。

そして自分自身も。心揺すぶられる本に出会えた。生き方を見直せた。人形劇、りんご、ファイニス飯田の熱い夏が終わった。あなたはどの秋どんな本に出会えるでしょうか。

「ヤブ敷」

最近心に残った本がある。大平光代さんの「だから、あなたも生きぬいて」という本である。

彼女は中二の時いじめに遭い、孤独感の中で自殺を図る。一命をとりとめたものの彼女をとりまく状況は変わらず、自分の居場所を求めて非行に走り、十六歳の時には極道の妻となり、背中に刺青を入れる。現在の養父である大平さんに再会し励まされ、応援されて泥沼からはい上がる決意をし、努力を重ねて中学の学歴を乗り越えて「宅建」「司法書士」と次々と合格する。父親の病気で、二十九歳の時、最難関といわれる司法試験に一発で合格し、現在は弁護士として非行少年の更生に力をつくしているというものである。

私は涙があふれてたまたまなかった。

悲しい事件が多すぎる。親が子どもを殺したり、子どもが親や友だちを傷つけたり……。確かにいろいろなことがある。苦しいことも多いだろう。笑ってばかりもいられないだろう。

本の中で彼女は言う。

「もう一度中学生の頃に戻れるのなら、いじめられてどんなに辛くても耐える。自殺なんかして親を悲しませるようなことはしない。どんなに苦しくても道を踏み外したりなんかしない。子どもたちに。」

命を大切にしてほしい。自分の生をたくましく生きてほしい。

そして自分自身も。心揺すぶられる本に出会えた。生き方を見直せた。人形劇、りんご、ファイニス飯田の熱い夏が終わった。あなたはどの秋どんな本に出会えるでしょうか。

「ヤブ敷」

最近心に残った本がある。大平光代さんの「だから、あなたも生きぬいて」という本である。

彼女は中二の時いじめに遭い、孤独感の中で自殺を図る。一命をとりとめたものの彼女をとりまく状況は変わらず、自分の居場所を求めて非行に走り、十六歳の時には極道の妻となり、背中に刺青を入れる。現在の養父である大平さんに再会し励まされ、応援されて泥沼からはい上がる決意をし、努力を重ねて中学の学歴を乗り越えて「宅建」「司法書士」と次々と合格する。父親の病気で、二十九歳の時、最難関といわれる司法試験に一発で合格し、現在は弁護士として非行少年の更生に力をつくしているというものである。

私は涙があふれてたまたまなかった。

悲しい事件が多すぎる。親が子どもを殺したり、子どもが親や友だちを傷つけたり……。確かにいろいろなことがある。苦しいことも多いだろう。笑ってばかりもいられないだろう。

本の中で彼女は言う。

「もう一度中学生の頃に戻れるのなら、いじめられてどんなに辛くても耐える。自殺なんかして親を悲しませるようなことはしない。どんなに苦しくても道を踏み外したりなんかしない。子どもたちに。」

命を大切にしてほしい。自分の生をたくましく生きてほしい。

そして自分自身も。心揺すぶられる本に出会えた。生き方を見直せた。人形劇、りんご、ファイニス飯田の熱い夏が終わった。あなたはどの秋どんな本に出会えるでしょうか。



# 先人たちの文化に触れる

## 第22回 竜丘地区市民大学講座第1講

去る七月三十日、第二十二回竜丘地区市民大学講座が、飯田美術館にて四十余名の皆さんの参加のもと、開催されました。

今年の第一講は、昨年に引き続き、『桐林人形』を学びました。美術館が特別陳列として、『伊那谷の人形芝居のかしら』と『桐林人形』を開催しているのに合わせ、桜井弘人学芸員を講師に展示物の見学と、スライド等による講演の二

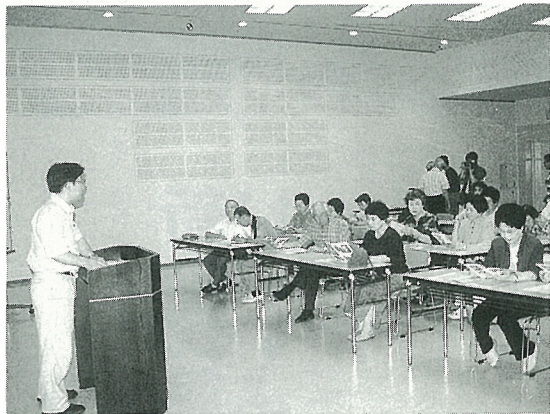


熱心に小道具を見入る参加者たち

部構成で行われました。展示室では、学芸員による展示ケースに陳列されている『かしら』や、衣装など一点一点について特徴や構造、採り方について説明を受けました。桐林人形は、桐林区の皆さんが今も土用の虫干しを

欠かさずに行い、大切に保管してきているので、保存状態も良く、展示物も見ごたえがありました。展示室は入口付近に代表するかしら『文七』『娘』などが展示され、衣装等を身につけた人形もあり、上演されていた当時の様子をふと思いつく描けるものもありました。美術館では、この特別陳列を開催するにあたり、桐林区より借用した『かしら』などを詳細に調査した結果、謎の多い桐林人形ですが、少しずつその謎が解明されたとのことでした。それは、伊那谷の他の人形座と同じく、江戸中期より上演されていたことを物語る次のような古い特徴が、顕著に見られるとのことでした。

植毛(新しい時代はかつら)によっていること。動作部には、くじらのひげを用いていることなどでした。桐林人形は、購入しただけで上演はされていないので、はとの説もありませんが、今回、新たに発見された弘化三年(一八四六)の古文書には、地元の若者たちで組織する若手組(若連中)が、人形芝居を担っていたこと。また、人形が桐林八幡社の祭礼道具の一つだったことが記されていることから、盛んに上演されていたことを知る事ができるとの説明



最後に、「昭和二十五年に上演されて以降、こどもも眠ったままであるので、何とか三番叟(さんばそう)のみでも復活を」と、提言をいただき今回の講座を終りました。

### 暑い暑い女の戦い

#### 日頃の家事を忘れて…

去る八月二十七日に飯田市市民運動広場に於いて、飯田市市民館主催による、第十九回女性ソフトボール大会が行われました。毎年多くの参加チームがある中、今年七チームでの戦いとなりました。

#### 《加入者募集中》

ゲーム展開となりました。竜丘チームは、初戦、川路チームとの試合で、一回の裏クリーンヒットが二本出て二点先取しました。その後、逆転されて、惜しくも破れてしまいました。しかし日差しの強い中、僅差で抑え、守り、打ち、白熱した試合でした。今回参加した竜丘チームは、四月から十月まで、夜七時三十分より九時まで毎週水曜日、飯田市市民運動広場に練習しています。チームの方は一現在十五

### 親子の広場

## きれいな水に

### 水生生物調査実施

建設省天竜川上流工事事務所では、毎年天竜川水生生物調査を実施しています。これは河川の水質状況を知らうとするもので、学生や一般の方の参加により、生物や水辺に親しみながら河川の水質保全や、河川愛護思想などの普及啓発を目的としたもので、昭和五十九年から実施し今年で十七回目です。

今年度は、去る八月四日、久米川との合流付近で行なわれました。また、人形劇フェスタの上演日と重なったためか、参加者は、例年の三割程度の十余名で、少し残念でした。

当日は、今年の夏を象徴するように朝から強い日差しでしたが、調査が始まる頃は夕立雲におおわれ、川辺の涼風を感じながら、約一時間の採取作業となりました。

ひざ辺りまで水につかりながら、川底の石を拾い上げ、石の裏に潜んでいる虫を丁寧に採り、採取した虫を種類に仕分けしました。さて注目の水質はというと「ヘビトンボ」といった虫が多く採取されましたが、これは、きれいな水に多い生物だと説明を受け、参加者はホッとしました。

活動がすすまっています。第一に大切なのが水を汚さない事です。下水道も普及しつつありますが、家庭でも水質保全について考えてほしいものです。

水質の悪化が問題となっていて、各地できれいな水を取り戻そうといった



採取のまとめをする子どもたち

竜丘地区では、公民館事業の「虫に学ぶ地域環境講座」の一環として取り組み七回目となります。

水質の悪化が問題となっていて、各地できれいな水を取り戻そうといった

活動がすすまっています。第一に大切なのが水を汚さない事です。下水道も普及しつつありますが、家庭でも水質保全について考えてほしいものです。

活動がすすまっています。第一に大切なのが水を汚さない事です。下水道も普及しつつありますが、家庭でも水質保全について考えてほしいものです。

活動がすすまっています。第一に大切なのが水を汚さない事です。下水道も普及しつつありますが、家庭でも水質保全について考えてほしいものです。



九時の開会式の時点では、うす曇りの天候だったので、スポーツには快適でしたが、九時三十分の試合開始には太陽が照りつけ、試合の内

おひさま文庫の七夕おたのしみ会が、去る七月十五日に竜丘公民館で行われました。午後一時過ぎると、親子連れが集まりだし、大にぎわいのなか、おたのしみ会が始まりました。それぞれが思い思いの願いごとを書き込んだ短冊や飾り物を笹に飾り七夕祭りにふさわしい会場となりました。その後、飯田図書館の宮下さんによるジャンボ紙芝居「カモメとねこのコロッケ屋さん」があり、くろくのように見ると子どもたちの姿が印象に残りました。その後、手作りの紙ひこうきを苦労して作り、青空にむかって元気よく飛ばし、歓声をあげ七夕の午後を過ぎました。

おひさま文庫は、毎週水・土曜日の午後一〜五時に開館していますので大勢の方の利用を待っています。

今年度、体育委員会の新しい事業として、本館並びに分館の全公民館委員を対象としたストレッチ体操とエアロビクス講習会を、七月二日に実施しました。これは各種体育大会などの準備体操を公民館委員の皆さんがスムーズにできる事を目的に、併せて委員同士の交流の場として計画したものです。講師には、中島靖

最初は、「アー」とか「ウー」とか声も聞こえてのストレッチでしたが、だんだん体もほぐれてきて、後半のキンキキップのフラワーを振り付けてもらう頃には、笑い声まで出る余裕で、全員が軽く踊れる位になりました。講師も参加者のレベルに合わせてのやさしく熱心な指導で、特に参加した女性の方たちには大変好評でした。今回は新しい事業という事で、公民館委員を中心に行いましたが、来年からは一般の方も対象に行えるよう、事業を考えたいと思います。

おひさま文庫の七夕おたのしみ会が、去る七月十五日に竜丘公民館で行われました。午後一時過ぎると、親子連れが集まりだし、大にぎわいのなか、おたのしみ会が始まりました。それぞれが思い思いの願いごとを書き込んだ短冊や飾り物を笹に飾り七夕祭りにふさわしい会場となりました。その後、飯田図書館の宮下さんによるジャンボ紙芝居「カモメとねこのコロッケ屋さん」があり、くろくのように見ると子どもたちの姿が印象に残りました。その後、手作りの紙ひこうきを苦労して作り、青空にむかって元気よく飛ばし、歓声をあげ七夕の午後を過ぎました。

おひさま文庫は、毎週水・土曜日の午後一〜五時に開館していますので大勢の方の利用を待っています。

おひさま文庫の七夕おたのしみ会が、去る七月十五日に竜丘公民館で行われました。午後一時過ぎると、親子連れが集まりだし、大にぎわいのなか、おたのしみ会が始まりました。それぞれが思い思いの願いごとを書き込んだ短冊や飾り物を笹に飾り七夕祭りにふさわしい会場となりました。その後、飯田図書館の宮下さんによるジャンボ紙芝居「カモメとねこのコロッケ屋さん」があり、くろくのように見ると子どもたちの姿が印象に残りました。その後、手作りの紙ひこうきを苦労して作り、青空にむかって元気よく飛ばし、歓声をあげ七夕の午後を過ぎました。

おひさま文庫は、毎週水・土曜日の午後一〜五時に開館していますので大勢の方の利用を待っています。

おひさま文庫の七夕おたのしみ会が、去る七月十五日に竜丘公民館で行われました。午後一時過ぎると、親子連れが集まりだし、大にぎわいのなか、おたのしみ会が始まりました。それぞれが思い思いの願いごとを書き込んだ短冊や飾り物を笹に飾り七夕祭りにふさわしい会場となりました。その後、飯田図書館の宮下さんによるジャンボ紙芝居「カモメとねこのコロッケ屋さん」があり、くろくのように見ると子どもたちの姿が印象に残りました。その後、手作りの紙ひこうきを苦労して作り、青空にむかって元気よく飛ばし、歓声をあげ七夕の午後を過ぎました。

おひさま文庫は、毎週水・土曜日の午後一〜五時に開館していますので大勢の方の利用を待っています。

**お知らせ**  
平成12年度  
飯田市成人式は  
平成13年1月7日(日)  
に開催されます。お間違えないようにお願いします。